

【高等学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立有田工業高等学校 (全日制)
-----	--------------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大にはは学校行事の実施方法の変更や中止等余儀なされたが、徐々に平時の学校運営にもどつつある。デザイン科・セラミック科展、有田陶器市ボランティアなどの地域の様々なイベントも実施され、学校外での教育活動も回復してきている。 ・「SAGAコラボレーション・スクール」重点校の指定を受け、学校運営協議会を設置し、委員の意見を反映した学校運営の工夫・改善に努めた。また、各学科の特色を生かした地域と連携した取組や地域貢献活動などを、様々な媒体方法で積極的に情報発信し、学校の魅力発信を強化することができた。次年度は、組織的な体制でPR方法を検討しながら広報活動を行ってきたい。 ・「地域みらい留学」制度への参画2年目を迎え、県と町の協力を得ながら、オープンスクールや個別相談会などを行い、県外からの志願者増に向けて取り組んだ。次年度に対応すべき課題も見えてきたので、関係者の共通理解のもと、学校内外の支援体制を整えていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>勉情 「愛し」「創り」「光れ」を礎とした自立型人間の育成</p> <p>「愛し」：自分を大切に、他人を思いやる 「創り」：新しいことに積極的に挑戦していく 「光れ」：一人ひとりが社会に貢献できる人間になる</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領実施に対応した教員の授業力向上と学習評価の工夫、生徒の主体的な学びの推進 ・「SAGAコラボレーション・スクール」重点校としての、有田町との連携協働による特色ある教育活動の充実と地域振興への貢献 ・県内唯一無二のセラミック科とデザイン科の魅力発信の強化、全国募集の推進及び志願者数の増加
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	
●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・新学習指導要領導入の年次進行における主体的な学びを重視した授業の推進 ・基礎学力の定着と向上	○(学校独自成果指標) ・観点別評価方法の改善検討会議の年4回の実施とPDCAサイクルの推進 ・基礎力テストの年間全体平均を7.0点以上。不合格者数昨年度比-5%	・教育課程委員会及び学力向上対策委員会を活性化させ、より効果的な評価方法の確立。授業研究週間2回実施。 ・作問担当の各教科へ試験結果の分析と効果的な手立ての依頼。	A	・年度当初の予定通りに教育課程委員会を実施し、新課程の評価方法について共通理解を図った。また、第1回授業研究週間を実施し、研究授業を含む、相互授業参観を行った。 ・基礎力テストの1学期末までの全平均点は6.8点であり、今後さらに工夫が必要である。	B	・今年度は計画通り年度内2回の授業研究週間を設け、授業、評価方法の改善が図れた。今後も評価方法について検討を続ける必要がある。 ・基礎力テストを活用した基礎学力向上では、全生徒の年間平均が6.8点で、目標値には及ばなかったが、不合格者数は昨年度比-14%であった。生徒、教師の意識は高くなっている。	
	○(学校独自重点取組・任意) ◎高い志を持ち、自らの目標や進路実現に向けた資格・検定取得の奨励	○(学校独自成果指標・任意) ◎高度資格取得と進路実現に向けた取組 ・ジュニアマイスター認定40名、校内表彰20名以上	・顕彰制度、表彰制度を生徒・保護者・職員へ周知させる。 ・資格取得、コンクール参加を奨励、補習体制の充実を図る。 ・9月に校内模擬面接指導を実施し、就職については内定率100%を目指す。企業や学校を知る機会をつくる。	・ジュニアマイスター認定40名以上の目標に対し、各科、生徒・職員一丸となり取り組んでいる。資格・検定試験、コンクールについて、募集があり次第担当職員から生徒に案内し、必要に応じた補習等実施している。 ・就職101名、進学52名が受験に挑戦している。就職の1次試験の結果、90%の内定をいただいた。	A	・教育相談講話と性に関する講話を実施した。「生命を尊重する心の大切さ」がわかったと回答する生徒は前年度と同様である。今後の講話も豊かな心をはぐくむ教育活動となるよう工夫したい。 ・来館者は昨年以上に増えた。朝読書とおして読書の習慣がついた生徒もいる。進路に関する図書や各科に関する図書を増やしたい。	A	・ジュニアマイスター認定40名以上の目標に対し、生徒・職員一丸となり取り組んだ結果、現在31名の生徒が認定の対象となっている。全体として数値目標には届かなかったが、生徒・職員の資格取得に向けた一所懸命の姿勢は評価できる。 ・就職は99名内定、進学は51名決定した。3名は未定だが進路先は検討中。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○豊かな心をはぐくむ教育活動の実施 ・「生命を尊重する心」や「献血への協力の大切さ」がわかった」と回答した生徒92%以上 ・生徒1人あたりの貸出冊数9冊以上。	・外部講師による、教育相談講話(7月)、人権・同和教育講演会(10月)、性に関する講話(12月)、献血セミナー(1月)を実施する。 ・朝読書実施、図書館便りの発行、生徒の希望に沿った選書、各科の学習や進路実現を助ける図書の紹介などで来館者増を図る。	A	・8月にいじめ問題に係る職員研修を実施し、いじめ防止等について組織的に対応できていると回答した教員は94.8%となった。 ・生徒・保護者には1回目のいじめアンケートを行ったが、大きな問題につながりそうな回答はなかった。 ・スクールカウンセラーと担任と教育相談担当が連携し、継続的な生徒との関わりができていく。	A	・心の教育に関する講話は、オンラインでの実施が多かったが、担任の声掛けが行き届くことで、より理解や共感を持った生徒が多いと感じた。 ・来館者が多く、学習活動で利用する生徒も増えた。貸出冊数が昨年度に比べて微増した。各科の資料となるものや資格試験、部活動に関する図書を増やした。 ・生徒会執行部による校内花植え活動など、生徒主体でおこなった。 ・人権・同和教育講演会を実施し、インターネットと人権について改めて考える機会となった。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○生徒アンケートによる早期発見および職員研修を通じた共通理解 ・いじめ防止等について組織的対応ができていくと回答した教員90%以上	・生活状況調査を11月に実施する。 ・心身の健康の保持増進に必要な情報を、保健だより(毎月発行)、食育だより(年間6回)で発信する。	・7月から保健だより、食育だよりをデータ配信している。確実に目を通してもらえるように呼びかけたい。 ・食育講話を実施した。地域の食文化や食事の楽しさと大切さについて学び、自身の食習慣について考えることができた。	A	・保健だよりは毎月、食育だよりは年間6回の配信をおこない、生徒の心身の健康保持増進につながった。 ・11月に生活状況調査をおこない、今後の生活習慣の改善の意識づけができた。	A	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・生活状況調査を11月に実施する。 ・心身の健康の保持増進に必要な情報を、保健だより(毎月発行)、食育だより(年間6回)で発信する。	A	・7月から保健だより、食育だよりをデータ配信している。確実に目を通してもらえるように呼びかけたい。 ・食育講話を実施した。地域の食文化や食事の楽しさと大切さについて学び、自身の食習慣について考えることができた。	A	・保健だよりは毎月、食育だよりは年間6回の配信をおこない、生徒の心身の健康保持増進につながった。 ・11月に生活状況調査をおこない、今後の生活習慣の改善の意識づけができた。	A
	○部活動の活性化 ○体力の向上	○(学校独自成果指標・任意) ・部活動加入率85%以上 ・九州・全国大会への出場・入賞 ・校内マラソン男子30km3時間以内60名、女子10km1時間30分以内60名以上	・部活動紹介、HP部活動ニュースの充実を図る。 ・部活動予算・体育文化奨励費の適正な運用と練習環境の整備・改善を行う。 ・体育科との連携による体力を高める運動の実施とマラソン練習期間を確保する。 ・定時退勤日を設定(水曜日)し、掲示や口頭による啓発を行う。 ・部活動休業日を設定する。 ・有給休暇(男性職員子育て休暇取得プラン含む)の取得を14日以上 ○早出遅出勤の奨励	・部活動加入率86.5%(昨年度比4.4%減)で目標を達成したが、運動部の加入率も4.7%減となった。HPでも部活動のニュースを多く取り上げてもらっており、次年度の加入率向上につなげたい。 ・ウエイトリフティングが全国大会出場、陸上部が北九州大会出場(競歩、円盤投げ)、野球部が九州大会出場。	A	・時間外在校等時間上限の遵守が完全にいたっていないので、該当職員への啓発が必要。 ・年次休暇の取得については順調である。 ・業務の効率化は調整中である。	B	・今年度は1年ぶりに本校伝統の30kmマラソンを実施することができた。体育の授業でも30分間走などを取り入れて体力の向上を図った。30km3時間以内の男子が52名、10km1時間半以内の女子が48名と、目標にわずかに到達しなかった。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○有給休暇(男性職員子育て休暇取得プラン含む)の取得を14日以上 ○早出遅出勤の奨励	・定時退勤日を設定(水曜日)し、掲示や口頭による啓発を行う。 ・部活動休業日を設定する。 ・有給休暇を取得しやすい職場環境づくりに努力する。	B	・時間外在校等時間上限の遵守が完全にいたっていないので、該当職員への啓発が必要。 ・年次休暇の取得については順調である。 ・業務の効率化は調整中である。	B	・勤務時間外勤務による上限の遵守は、全職員への啓発は行っているが、完全な遵守には至らなかった。 ・各科・分掌の業務効率化は継続中である。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
★SAGAコラボレーション・スクール重点校としての取組推進と学校魅力化の情報発信の工夫	★学校運営協議会(学校魅力強化委員会)の更なる活用による地域・外部との連携強化	★学校運営協議会を年6回開催する。 ★学校運営協議会で提案された事業を最低1個実現する。	・学校運営協議会の熟議をさらに充実させる。 ・地域に出向いたり、地域の方々と触れ合う機会をこれまで以上に確保する。	A	・学校運営協議会は4回開催が終了した。運営協議会で提案された事業のうち、2つは既に実行済みで、残り複数の事業を来年度実施に向けて検討中である。 ・地域からの依頼を各科で受けたり、インターアクト部が地域に出向いたり、例年以上に活動が活発化している。	A	・学校運営協議会は6回目を2月27日に実施予定で、計画通り開催できた。 ・学校運営協議会での協議で3つの事項について意見を得、実施や改善を行った。 ・地域から大切にされている雰囲気を感じると答えた生徒の割合が90%、教職員の割合が97%と、目標を大きく上回って達成できた。
	○地域の魅力発信の強化と広報活動の充実	○自分の学校を中学校にお勧めできると考えている生徒の割合を83%、教職員の割合を85%以上にする。 ○県外からの入学者を28名以上にする。 ○地域みらい留学入学者を5名程度にする	・広報活動を校外だけでなく校内にも充実させ、他科や他の部等の活動も周知する。 ・隣県への学校訪問を積極的に行う。 ・地域みらい留学による入学者のケアを丁寧に行い、入学者が宣伝者となれるよう充実した生活を送れるようにする。 ・前年度以上に戦略を立てた広報活動を行う。	A	・コミュニティ・スクール通信は月に最低1回の発行ができており地域への学校活動の周知につながっている。 ・隣県への学校訪問を活発に行い、本校の特徴を伝えることができた。 ・意欲的な留學生のおかげで、校内での学習活動も活性化されている。	B	・本校を中学生にお勧めできると答えた生徒の割合が85%、教職員の割合が93%と、目標を達成できた。 ・県外からの合格者が特別選抜で8名、一般選抜の志願者は15名となっており、昨年度とほぼ同様となり、2名の増加にはつながらなかった。 ・地域みらい留学の合格者が3名となり、5名程度の目標にはやや及ばなかった。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育 ★...唯一無二の誇り高き学校づくり	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究週間を設けることにより、授業改善がより図られた。今後も新学習指導要領ののっとなってさらに良い評価方法について、改善・検討を続ける必要がある。 ・課題研究や学校行事、部活動を中心に地域との連携行事は充実した。特に「地域学習の日」において新たに地域の協力が得られたことも大きかった。今後も課題研究や部活動などで、地域に喜んでもらえるような活動の充実を図りたい。 ・令和6年度入学予定者の全国募集による受検者は3名にとどまった。「地域みらい留学」以外の手法を用いた全国からの受検生の獲得手法についても、さらに研究・実践が必要である。
---	--